えんがわ

2018 年 11 月 1 日発行
出雲市古志町 344
社会福祉法人ことぶき福祉会
『笑庵ことぶき』
発行責任者：施設長　加田　誠
TEL:(0853)25-7701
FAX:(0853)25-7702
Mail:shouan@carol.ocn.ne.jp

笑庵では日頃からお年寄りさんと職員がたくさん話をしています。お年寄りさんと職員の関わる時間が多いこともあり、いつも楽しそうに笑っておられる姿や安心した表情で話されているところをよく見かけます。それはことぶき福祉会のケア方針の中にもあるなじみの関係があるから心安く話せるのかなと思います。

私が入職して間のない頃に、あるお年寄りさんが落ち着かない様子で歩いて来られ私に声をかけられました。傍に座ってその方のわからないことや困っていること、またご自身の昔話まで話されるのを聞いているうちにいつしか落ち着かれとても穏やかな表情になっておられました。その時の光景が今でも私の心に残っています。

私は人の話を聞くのは好きなのですが、自分から話をするのは苦手な方です。ですが、そんな私にもお年寄りさんはきちんと話しかけられ、優しく接して下さいます。そんな時私はいつでも優しい心でいたいと強く思います。笑顔でお年寄りさんから信頼して、安心して頂けるような職員になりたいと思います。

笑庵で勤務する中で、ここでの生活は本当にお年寄りさんが主体となりそれぞれのペースで過ごされていると思います。自主的に食器洗いや洗濯等されていたり、お年寄りさん同士で声をかけ合っておられる場面をよく見かけます。役割を発揮され生き生きとした表情をされている、それぞれの方の生活が続けられるように私自身も考えて日々努力していきたいと思います。

先月から笑庵の昼食時は、今までとは違う光景を目にするようになりました。一つは、職員も以前のようにお年寄りさんと同じ昼食を一緒に食べるようになりました。そうすることにより大家族で団欒している様な温かい食事に、またお年寄りさんとの会話が増え楽しい食事になりました。二つ目は、おひつを用意してお年寄りさんに自分でご飯をよそってもらう様になったことです。

今までは職員がよそっていましたが、個人差もあり遠慮されておかわりをされない方や量が多くて残される方もおられました。気を遣わずに食べられる何か良い方法はないかと、考えていたところ「自分で入れたご飯なら遠慮なく食べられるのでは」という提案もあり試してみることになりました。

最初のうちは皆さん慣れないせいもあり遠慮されて少なく盛られる方や、どうしたら良いか分からずに困った様子の方もおられましたが、最近ではおひつと茶碗をテーブルの上に置くと「入れーだかね？」と自分からよそわれる方や自分でよそえない方には「どの位食べる？」と声を掛けられる方も見られるようになりました。最近では冗談を言いながら大盛りにされる方や体型を気にされ小盛りにと言われる方等、今まで職員がよそっていた頃には聞かれなかったお年寄りさん同士の会話が聞けるようになり、お年寄りさん自身に決めてもらう重要性を日々感じています。そうしたこともありご飯を残される量も、少しずつ減ってきたように思います。

些細な事かもしれませんが、お年寄りこそ生活の主体者であることを自覚し、多くの役割をもってもらい本人の思いを大切にした生活になるよう努めていきたいと思います。

多岐の花馬まつり

奥出雲の金言寺
紅葉した大銀杏に見
入っておられました